

「中国の大学受験」

上海駐在員事務所

舛本 誉人

「ニーハオ！」 今回は6月7日～9日まで3日間にわたって行われた「高考（ガオカオ）」についてご紹介します。

高考とは現在中国に約2,800校存在すると言われる大学への進学権を懸けて、1年1回、毎年6月7日～9日に一斉実施される大学受験のことを言います。進学できる大学は高考の点数次第で振り分けられることになるため、受験生にとっては一発勝負の過酷な試験となっています。中国は古より実施されてきた「科举制度」が根付いていることもあり、特に学歴社会の色合いが強く、受験生は「良い大学⇒良い会社⇒良い人生」を目指し、少しでも有名で政府から多額の資金が投入されるような、重点大学と呼ばれる難関大学を目指し高考に臨みます。

受験生の将来を決定付ける高考、期間中の会場周辺は異様な雰囲気になります。受験生が安全且つ迅速に試験会場に辿り着けるよう、一帯でパトカーが配備され道路交通規制が敷かれたり、周辺の騒音を厳しく規制する取締が行われたりと、国家イベントと呼ぶに相応しい物々しさとなっています。この日、受験生の親たちも必死で、高考会場の外では試験開始から終了までの約8時間、子供を見守り続ける親たちが歩道を埋め尽くす光景を目にしました。高考、これは言わば一家の将来を懸けた家族総出の戦いと言ったところでしょうか。

しかし、こうした厳しい高考を見事上位で突破した彼らであっても、大学卒業後には厳しい現実が待っているようです。2016年の重点大学卒の平均初任給は7,000元弱（約11万円程度）で、大卒者全体の平均初任給5,000元弱（約8万円）から見れば、遙かに好待遇であります。エリート意識が強い彼らにとっては、この水準では到底納得して就職できるレベルでは無いようです。結果、2016年は約3割弱の卒業生が、より良い待遇の就職先を探す就職浪人の道を選択する等、エリート新卒者ならではの就職難を社会問題化させています。

2017年の高考を終え、晴れ晴れした顔で試験会場から出てくる受験生たちの頭上は快晴の空が広がっていました。これから彼らが歩む大学生活の成功を祈念したい。

高考会場の入場門



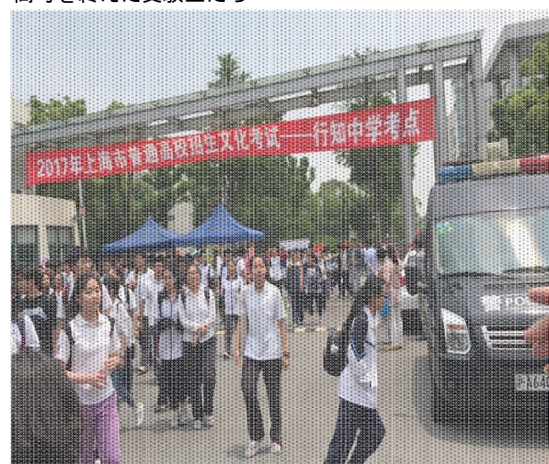
筆者撮影

高考会場外から子供を応援する親たち



筆者撮影

高考を終えた受験生たち



筆者撮影